

F-33 生活設計における方法論的考察
東海学園女短大 村尾勇彦之

目的 家庭経営を行なう手段としての生活設計とは、いかなるものであるかを定義し、生活をどのように設計すべきであることを明らかにしようとする。すなわち、生活設計の目的とは何か、そのための手段としていかなる方法がとられるべきであることを研究目的とする。

方法 これまでに報告されてきた生活設計についてのとらえ方、ならびに具体的に展開された生活の設計を考察し、そこにみられる共通性、問題点を前提する。つぎにすでに報告した家政学についての見解をさらに展開して生活設計を位置づけ、そうしてえられた観点から前提されたこれまでの生活設計論を批判的に考察し、今後のあるべき方法を求める。

結論 前提となるこれまでの生活設計論は、つぎの二点に集約してとらえることができる。①環境の変化とその影響の中で、家庭がそれに適応し生活を主体的・合理的に設計するということ考え方。②家庭を前提として環境との相互作用を生活設計するという考え方。前者からは、人間を主体とした環境の形成というモメントが欠如していること、後者は、家庭が条件とされているために個人が近接環境としての家庭を形成するという生態学的発想の原点が見失われていることが問題の結論は、それ自体歴史的な存在である個人が、個性・人生観に基づく欲望によって生活周期を設計—生命再生産のため必然的な家族関係の形成、そこに二つの生活周期が歴史的・自然的制約の中で家族周期として合成され、トータルな生活設計に至るというものである。